



6回裏で追加点に繋がるヒットを放つ兵庫さん

5回表、北見北斗はまたもやヒットや送りバントを連発し、着々と出塁していき1点を追加した。6回表でも1点の追加を許し、4点を追う形で始まった6回裏、滝西は菅原さんが力強い3塁打を放ち、続く菊地さんもフォアボールで出塁し1、3塁となった。ここで平瀬さんが2塁打を放ち、菅原さん、菊地さんがホームに帰って2点を追加した。安部さんもフォアボールで出塁し、1、2塁となったとき横山広稀さん(3E)がバントを決め、続く兵庫さんもヒットを打ち2点を追加し、同点まで追い上げる事ができた。

同点で迎えた7回、再び相手に1点の追加を許してしまい7対8で滝西の攻撃となった。ノーアウト満塁という大きなチャンスを迎えたが得点につなげられず点差を縮めることはできなかった。

同点で迎えた7回、再び相手に1点の追加を許してしまい7対8で滝西の攻撃となった。ノーアウト満塁という大きなチャンスを迎えたが得点につなげられず点差を縮めることはできなかった。

同じく副キャプテンの櫻庭成一朗さん(3F)は、「みんな、甲子園に行く自信があったけど、あと一歩及ばずだったのでもっと悔しかった」。そして、「兵庫、横山と自分の三人でとにかく話し合いを重ねて、チームをより良くすることをがんばった」と話した。

3年ぶり夏の全道

対北見北斗あと一歩及ばず

7月13日に高野連北海道人大会二日目、旭川スタルヒン球場で行なわれ、滝西高校は北見北斗高校と対戦した。

先攻北見北斗の攻撃で1点の先制を許し、1回裏、後攻滝西の攻撃の一番打者、兵庫紳太郎さん(3F)がヒットを放ち一塁へ進んだ。続く田口蒼斗さん(3D)は惜しくも三振で1アウトとなったが、次の細田悠晴さん(3D)もヒットを放ち、続いて菅原青葉さん(3E)も力強いヒットを決め満塁のチャンスが訪れた。このチャンスでの打者は菊地尋翔さん(3E)で見事ヒットを放ち、兵庫さんがホームに帰ってきて1点を返した。その後、渡邊羽琉さん(2A)がフォアボールで出塁し再び満塁となった。平瀬優羽さん(3A)がヒットを放ったことで細田さんがホームに帰り、続く相手のエラーもあり滝西は2点を追加した。1回裏は計3点獲得し終わった。

リードして迎えた2回表で

はヒットや送りバントを許してしまう場面も見られたが、最後にピッチャーの安部陽月さん(3D)が相手打者から三振を奪い見事無失点で抑えた。2回裏では兵庫さん、田口さんがヒットや送りバントを決め出塁していたが得点には繋がらなかった。3回表、北見北斗の連続ヒットや内野ゴロで1点の追加を許したが滝西が見事なダブルプレーを見せ追加点を1点で抑えた。続く4回では北見北斗がレフトに飛ばしたヒットを田口さんが取り1アウトをとったがその後、相手に出塁を許し、3点を取られ3対5と2点のリードを許した。

た。続く8回表、満塁のピンチを迎えた滝西は押し出しで1点を取られてしまい、その後も犠牲フライやヒットを打たれて3点の追加を許した。裏の滝西は、1、3塁のチャンスで細田さんの打撃により1点を返した。

8対11で迎えた9回、安部さんが力強いピッチングをみせ三者凡退とした。裏、最後の滝西の攻撃では満塁のチャンスを迎えたものの加点には繋がらず、8対11で初戦敗退となった。

キャプテンの兵庫さんに、これまでの活動を振り返ってもらうと「今までキャプテンを務めて一番大変だったことは、たくさんあるが、やはり一番は個性溢れる多くのメンバーをまとめ、引っぱっていくことだった」と話した。また、インタビューの際に周りのメンバーからは、「プレーと態度でチームを引っ張ってくれていた」という言葉もあった。

今大会で攻撃・守備の両面で活躍を見せた副キャプテンの横山さんは、「三年ぶりの全道だったの、まずは一勝したかった。負けてしまったけど、自分達らしい野球を後悔なく最後までやりきることができた」と話してくれた。



担当
森田 志音(3F)
吉田 羽蘭(3F)



笑顔で仲間にサインを送る横山さん